

## 第1回 量子ワーキンググループ 議事要旨

1. 日時 令和8年1月30日(金) 17:00～19:00
2. 場所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室+Web会議
3. 出席者(敬称略)  
**<構成員>** ◎座長、○座長代理 \*Web参加  
◎小野田 紀美 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)  
○鈴木 隼人(欠) 科学技術政策を担当する内閣府副大臣  
○若山 慎司(欠) 科学技術政策を担当する内閣府大臣政務官  
伊藤 公平 慶應義塾 塾長  
遠藤 典子\* 早稲田大学大学院教授  
島田 太郎\* 一般社団法人量子技術による新産業創出協議会 代表理事  
鈴木 一人 国立大学法人東京大学公共政策大学院教授  
波多野 睦子 国立大学法人東京科学大理事・副学長  
益 一哉 国立研究開発法人産業技術総合研究所  
量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センター センター長  
松岡 智代 株式会社 QunaSys C00  
  
**<政府関係者(関係行政機関の職員)>**  
濱野 幸一 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長  
福永 哲郎 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官  
原 克彦 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官  
柴山 佳徳 総務省大臣官房審議官(国際戦略局担当)  
花田 貴裕 外務省経済局参事官(代理出席)  
清水 真人 文部科学省文部科学大臣政務官  
淵上 孝 文部科学省研究振興局長  
越智 俊之 経済産業省経済産業大臣政務官  
今村 亘 経済産業省イノベーション・環境局審議官(代理出席)  
武田 伸二郎 経済産業省イノベーション・環境局イノベーション政策課量子産業室長  
堀江 和宏 防衛装備庁防衛技監
4. 議事
  1. 設置趣旨及びワーキンググループの進め方について
  2. 今後の検討項目について
  3. その他
5. 配布資料  
資料1 量子ワーキンググループの開催について  
資料2 量子ワーキンググループ運営要領  
資料3 成長戦略の検討体制について  
資料4 「量子エコシステム構築に向けた推進方策」(R7.5.30 量子技術イノベーション会議)における課題や取組み等について  
参考資料1 量子エコシステム構築に向けた推進方策(R7.5.30)

## 6. 議事要旨

### 【設置趣旨及びワーキンググループの進め方について】

- 量子分野は成長戦略の重要な柱であり、官民投資ロードマップを具体的に策定することが本ワーキンググループの主目的であると考え。総花的ではなく重点領域に絞り、目標や政策手段を明確にすることが重要である。また、デュアルユースを含め実用化を見据えた議論を進める必要がある。
- これまで研究開発や人材育成、拠点整備を進めてきた結果、国産量子コンピュータの開発や量子センシングの実用化に向けた進展が見られる。今後も基礎から応用まで一貫した研究開発と人材育成をさらに推進する必要があると認識している。
- 量子技術の産業化に向けては、技術開発のみならず、国内外の産業動向や企業活動の活発化を踏まえた戦略が必要である。拠点形成やサプライチェーン強化を通じて、国際競争力を高めることが重要である。

### 【今後の検討項目について】

- 本ワーキンググループでは、最終的に官民投資ロードマップを取りまとめる必要があり、現状分析、目標設定、勝ち筋の特定、政策パッケージの提示を一体で整理することが重要であると考え。また、量子コンピューティング、通信、センシングの三分野で段階的に検討を進める必要がある。
- 量子分野は研究段階から実用化段階へ移行しつつあるが、技術方式は複数存在しており、単一の勝ち馬が決まっている状況ではない。むしろ用途ごとに最適な技術が異なる可能性があり、多様な技術の発展を前提に考えるべきである。
- ロードマップ策定に当たっては、技術的優位性や市場性だけでなく、自律性や不可欠性、波及効果といった観点を踏まえて重点領域を選定する必要がある。また、AIや半導体など他分野との連携も考慮すべきである。
- 量子コンピューティング分野を先行してたたき台を作成し、順次他分野へ展開する進め方が適当であると考え。また、成果が得られた部分から前倒しで提示することも必要である。

### 【量子コンピューティングに関する官民投資ロードマップ素案について】

- 量子技術は基礎研究から実用化へ移行しているが、基礎研究の重要性はむしろ高まっており、基礎と応用を並行して進めるべき分野であると認識している。また、複数の技術方式が提案されている状況は健全であり、用途に応じて多様な方式が共存する可能性がある。
- 国際展開を見据えると、国産技術の開発だけでなく、海外の先端量子コンピュータを導入してテストベッドとして活用し、実証を進めることが重要であると考え。また、その上で国産技術の競争力を高めていくべきである。
- 民間投資を促進するためには、供給側だけでなく需要側の投資も重要である。どのように使えるのかという観点からの研究や実証が進まなければ、産業化は進まないと考え。

- 量子コンピュータの市場形成においては、ユースケースの明確化と需要の喚起が最大の課題である。特に利用側企業のニーズ形成と投資促進が重要であり、これに対する支援を強化すべきである。
- 量子コンピュータのビジネスはハードウェア単体ではなく、クラウドやサービスとして計算資源を提供するモデルが重要になると考える。付加価値の源泉がどこにあるかを意識した戦略を検討すべきである。
- 市場や勝ち筋の整理においては、ハードウェアだけでなく、コンピューティングビジネス全体としてのポジショニングや付加価値創出の観点を明確にする必要があると考える。

#### 【その他意見】

- 官民投資の促進には、政府による研究開発支援や設備投資支援を通じて民間投資を誘発する仕組みが不可欠である。税制や予算措置を含め、総合的な支援策を講じるべきである。
- 人材不足は深刻な課題であり、研究人材だけでなく、ビジネス人材や利用側人材の育成も必要である。また、テストベッドや計算資源などの基盤整備も合わせて強化すべきである。
- 拠点形成においては、研究機関に加えて大学の役割も重要であり、産学官が連携したエコシステムを構築する必要があると考える。
- 国際連携については、同志国との協力やサプライチェーン連携を進めるとともに、国内拠点に海外から人材・技術・企業を呼び込む仕組みを構築すべきである。

以上